



社会福祉法人

相談は無料です。内容の秘密は守ります。
名前をおっしゃる必要はありません。

はりまいのちの電話

広報誌

No. 78
2026. 6



はりまいのちの電話の相談受付時間が午前 10 時からになりました

はりまいのちの電話

相談電話

079-222-4343

毎日 10:00～翌日 1:00



自殺予防いのちの電話

フリーダイヤル

0120-783-556

毎日 16:00～21:00
毎月10日 8:00～翌日 8:00

挑戦こそわが人生

講師 日本初の全盲弁護士 竹下 義樹 氏

● 不自由だけど不幸ではない

「挑戦こそわが人生」ちょっと恥ずかしい演題ですが、14歳で失明したことが、僕自身にとっては挑戦というふうに、人からよんでいただけるような人生を自然と歩むことになりました。

中学三年の時に失明という大きなアクシデントがありましたが、失明するまでは相撲部に属していました。勉強は嫌いでしたけれどスポーツは好きでした。相撲以外はたいした運動能力があったわけではありませんが、相撲は手抜きをしたことがないつもりでした。残念ながら、その相撲のぶつかり稽古が多分原因だろうと思われる外傷性網膜剥離で失明しました。これはもともと目の体質が弱い人に起こる病気ですが、おでこを強く打つと、その一番奥にある網膜が破れてしまうんですね。今だったら医学の進歩で外傷性の網膜剥離で失明する人はほとんどないそうですが、今から60年前の医学では残念ながら私の視力を維持することはできませんでした。

この失明が確かに私の人生を変えたと言えます。しかし、その失明という事実は、僕の人生には不幸をもたらしませんでした。当然、盲学校での勉強がはじまるわけですが、その頃は目が見えなくなったことを、あまりくよくよ思うような子供ではありませんでした。両親は辛かったと思います。しかし、私自身は目が見えなくなったときに「不自由やな」とおもっただけでした。

その僕が、高校二年の終わりごろに大きな変化をおこすことになります。

それは目の見える普通高校の友達と遊んでいた時の気持ちの変化です。将来について普通高校の仲間たちは、みんなが全く違うことを言うのです。ある友達は「僕は教師になるんだ」と言いました。確かに勉強ばかりしてる男の子でした。「音楽家になってバイオリンやるんだ」という子もいました。僕と同じで勉強の嫌いな友人がいて、こいつは高校時代にも柔道やって「大学いって大学選手権で活躍するんだ」と言っていました。もっと勉強の嫌いな奴は「早く高校卒業してバイクの免許をとりたいんだ」なんてことを言っていました。

自分は、その時に、ものすごく寂しかったんです。自分だけが置いてきぼりを食らったような感覚でした。それで、盲学校に戻って担任の教師に「先生、大学に行かせてください」と言ったんです。

● 弁護士になりたい

大学1回生の終わりごろ、法務省に、司法試験の点字受験のことについて手紙をだしました。すると法務大臣官房人事課課長補佐という方から「諸般の事情から実施が困難です。わが国には点字の司法試験の先例がありません。ご了承ください。」という返事がきました。了承できるわけがないじゃないですか。悔しかったから、その手紙を今でも残しています。これが、僕にとって大学受験以上の大きな関門となりました。



竹下先生ご夫妻

弁護士になりたいということは僕にとって、ただ憧れでしかありません。でも応援してくれる友達の支えもあって憧れを強い力に変えることができたと思っています。ですから法務省に「点字受験を認めろ」という運動を始めたのです。友達の手引きで何度か法務省に足を運んだけれど、何度行っても追い返されました。そのうちに朝日新聞の記者が僕に「竹下さん、一人で頑

張っても法務省は動かないよ。竹下さんを支持してる人が沢山いるんだという条件を考えなさい。」と言いました。それで京都に戻って、仲間と相談して、竹下の弁護士へ夢を応援するための組織を立ち上げていただきました。そして「盲人にも弁護士への道を」と運動の輪を広げていっていただき、昭和48年に法務省の壁が取り払われ点字受験が認められるようになりました。

そういうふうな僕の弁護士になりたいという憧れから出発したわけではありますけれども、それを実現させるための仲間がどんどん増えていったことによって、僕の弁護士までの道が開けていったわけです。



● 生活保護・組長責任訴訟・障害者自立支援法

障害のある僕を助けてくれた人たちが沢山いたから、今度は僕が障害を持つ人たちの権利を守るための活動、障害のある人たちの声を行政や裁判所につなぐ役割をしていこうと思っていました。その一つのテーマが生活保護です。生活保護を中心とした社会保障分野では、一時期、日本で一番生活保護案件を抱えている弁護士と言えだけの案件を担当していました。

もう一つの出会いがあります。京都で会津小鉄会系と、山口組系の抗争事件があって、駆け付けた警察官がヒットマンに誤って射殺されるという事件が起きました。その警察官の遺族の方から相談がありました。京都弁護士会の民暴委員会で、本当に組長の責任が問えるのかとの議論がありました。一審では負けましたが高裁、最高裁と勝訴することができました。

2006年に障害者自立支援法という名前ばかりが立派な法律ができました。でも中身がひどくて、簡単に言えば、重度の障害者ほど自己負担が増えて福祉サービスが利用しにくくなる法律だったんです。全国の障害者は怒り心頭です。それで全国で弁護団が結成されて、みんなが動き始めます。でも、この裁判は最高裁までいく前に終わってしまいました。それは政権交代が起こって、国が「この法律は悪法だから速やかに廃止して新しい法律を作ります」ということを我々訴訟団に約束するわけです。しかもこの裁判を通じて、今度は弁護士という立場じゃなくて、障害者団体の立場から、新しい法律をつくる国の審議会のメンバーに入れてもらえる流れになって、今でも続いています。全国の視覚障害者の思いをどれだけ国や社会に届けられるかということ、それが自分の人生の中で一番大切にしてきた役割かもしれません。

その後、マラソンのことやヒマラヤ登山のことなどの
たくさんの挑戦をしてこられた感動的なお話をいただきました。

● 人のつながりが夢を叶えてくれる

僕にとってボランティアの人たちというのは、夢を叶えてくれる大切な存在です。それと仲間、一緒に歩み考えてくれる仲間が、仕事の時も、遊びの時も、いつも沢山いました。ボランティアそして仲間たち、僕の人生の間違ひなく大きな財産です。僕は失明しても幸せだと言えたのは、そういう僕に夢を与えてくれる人と人のつながりがあったからだと思います。

今日は1時間30分おつきあいいただいたことにお礼申し上げ、私のスピーチを終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

(1月25日はりまいのちの電話公開講座 抜粋)



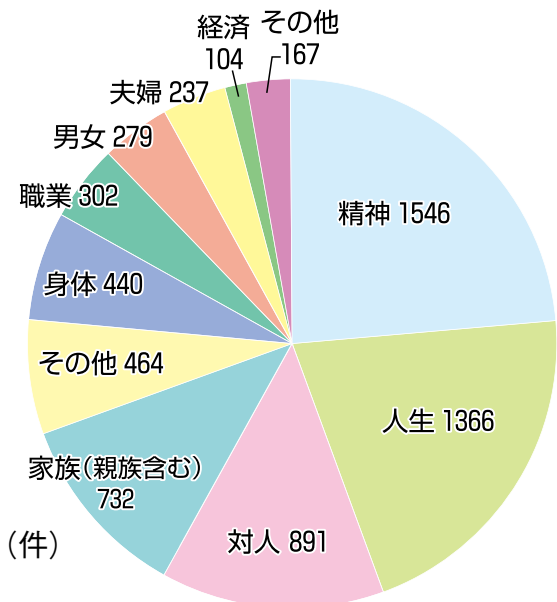
講師プロフィール

1951年石川県輪島市生まれ。石川県立盲学校理療科、京都府立盲学校高等部普通科を経て、龍谷大学法学部を卒業。1981年司法試験合格。1984年に京都市弁護士会に所属。1994年に竹下法律事務所を開所。2007年つくし法律事務所に改名。

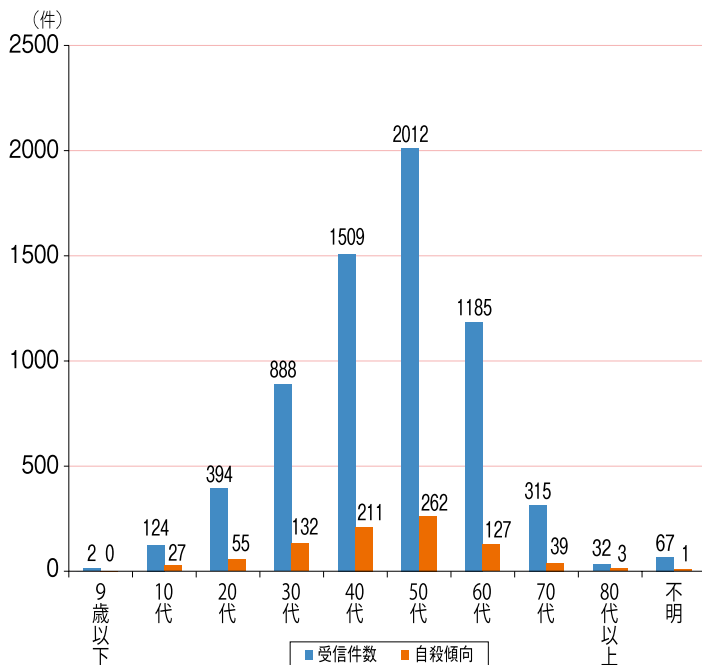
● ● ● 電話相談受信状況 ● ● ●

2025年1月から12月までの1年間のはりまいのちの電話の受信件数は、通常電話4,911件、毎月10日の自殺予防フリーダイヤル1,133件の合計6,528件でした。

内容別受信状況



年代別受信状況



※自殺傾向率とは：自殺念慮、危険、予告、通告、実行中の割合
 ※「人生」とは、総合内容が孤独、生き甲斐、生き方等に関する内容
 「精神」はうつ、統合失調症、その他精神的な疾患等に関する内容

電話相談受信状況

月別受信件数

(2025年1月～12月)

(件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
通常電話	326	386	317	378	448	454	415	418	383	442	405	539	4,911
毎日フリーダイヤル※1	110	104	90	96	98	109	104	81	67	90	109	75	1,133
自殺予防	38	28	79	37	37	32	33	29	73	38	32	28	484
合計	474	518	486	511	583	595	552	528	523	570	546	642	6,528

※1 毎日フリーダイヤル相談：いのちの電話では、コロナ禍が続く中、先の見えない感染不安・経済不安等で大変なストレスに追い詰められている方々の声に寄り添うフリーダイヤル相談を毎日16時から21時まで実施しています。

はりまいのちの電話公開講座

喪失を抱きしめて (仮題)

講師

国立がんセンター名誉総長
垣副 忠雄 氏



日時

2027年(令和9年) 1月31日(日) 14時～16時

会場

アクリエ姫路 中ホール



ご支援ありがとうございます

(2025年10月1日～2026年3月31日 敬称略 順不同)

下記の方々から温かいご支援をいただきました。深く感謝いたしますと共にご報告を申し上げます。
電話相談活動を継続させるため、これからもご支援ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

法人・団体

阿比野建設(株)	社会医療法人財団	播州信用金庫
(株)魚崎建設	聖フランシスコ会	姫路野里教会
梅津眼科	事業委員会一同	ぼうぜ医院
加古川東教会	聖母奉献修道会	松島クリニック
カトリック仁豊野教会	姫路信用金庫	(株)みどり不動産
弁護士法人 菊井法律事務所	空地内科院	もったいない倶楽部
(株)きんでん姫路支店	たつの赤とんぼライオンズクラブ	山陽色素(株)
くろさか小児科アレルギー科	どいこどもクリニック	和田産婦人科
シティハウス(株)	中播磨連合自治会	(有)東光印刷
(株)サーブ	西山工機(株)	
(有)ジャスティス	日本基督教団 はりま平安教会	
(同)ジャスティス	濱中製鎖工業(株)	

個人

足立 隆子	大島誠一郎	坂村 亜樹	中山 正美	松末 光弘
荒木 郁代	大竹 妙子	左納真理子	西脇 淑子	宮下 直人
荒木 英一	大道 照和	澤田 恒	西川 勝彦	三上 雅由
有川 裕之	岡本 教穂	下山 登久	長谷川昌美	三輪 光代
石井 要子	岡本 卓子	杉山 正幸	浜村 弘子	村原圭伊子
石原由佳子	岡田 裕子	高倉 泰二	早瀬 光江	森下 伸子
石原有美子	岡田 兼明	瀧川 泰久	原 ひろみ	柳川 芳廣
犬賀 武敏	尾崎 嘉則	竹縄 安子	原田 悦子	藪元 章吾
井上 和彦	表 まゆ子	田中美智子	日野 和美	山崎 隼人
井上 光一	鎌谷 一磨	谷 千里	福本 攻	山田 泰三
今井 直昭	鎌谷 正弘	玉置 裕之	福本恵美子	山名みどり
上角 琢治	北 彰人	寺内 孝子	藤原 克彦	山根美保子
上田 賢一	喜多村智美	出羽 桃子	藤原 民子	吉井 政幸
上田多美恵	衣笠 祥子	鳥居 佳江	古谷 園子	米谷 啓和
上原慎一郎	清元 正昭	中畔 義博	古谷 大輔	吉田 容子
榎本 恵子	久保精一郎	中川 敦子	穂積洋一郎	吉田善太郎
大内 晋二	桑田 祥夫	中川裕美子	前田 勝典	和田 長平
大方 洋子	栗岡 輝明	永瀬 隆子	前田 純子	
納 正明	小西 美子	中村 滋彦	前田 正英	

匿名11名



もう怒らない

～小さな幸せをみつける～ (仮題)



児童虐待防止機構オレンジ CAPO 理事長

島田 妙子 氏

目 時

2026 年(令和 8 年) 10 月 24 日 (土) 14 時～16 時

会 場

姫路市総合福祉会館 5 階 第 1・2 会議室

事務局日誌

(2025 年 11 月 1 日～2026 年 5 月 31 日)

11 月 6 日	公開講座「子どもまんなか社会をめざして」 久保田智子 氏 島田妙子 氏
11 月 15 日	第 43 期後期養成講座
11 月 21 日	アドバンス研修
11 月 29 日	第 43 期後期養成講座
12 月 6 日	第 43 期後期養成講座
1 月 16 日	アドバンス研修
1 月 17 日	第 43 期後期養成講座
1 月 25 日	公開講座「挑戦こそわが人生」 弁護士 竹下義樹 氏
1 月 31 日	第 43 期後期養成講座
2 月 7 日	第 43 期後期養成講座
2 月 15 日	相談員募集説明会
3 月 4 日	理事会
3 月 20 日	アドバンス研修
3 月 31 日	評議員会
4 月 18 日	第 44 期養成講座開講式 第 43 期仮認定式・第 42 期認定式 第 44 期前期養成講座
4 月 25 日	第 44 期前期養成講座
5 月 9 日	第 42 期相談員歓迎会 (いちご狩り)
5 月 16 日	第 44 期前期養成講座
5 月 22 日	第 44 期前期養成講座

※毎月 10 日「自殺予防のちの電話」フリーダイヤル
その他 運営委員会、電話相談継続研修、第 7 期アドバンス研修を月一回、相談員カフェを毎週、研修委員会、統計委員会などの各種ボランティア委員会を適時開催

メール会員募集中

「はりまいのちの電話」では、私たちの活動を応援して下さるメール会員を募集しています。メール会員になっていただくと、公開講座などははりまいのちの電話のイベント情報の案内や広報誌 (PDF) をメールでお届けします。また将来的に相談員としての参加につながる情報もお届けします。申し込みは QR コードがはりまいのちの電話ホームページからお願いします。

メール会員申し込み QR コード▶



イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンに登録しています。

毎月 11 日にマックスバリュイオンタウン店で買い物すると黄色のレシートをもらいます。その黄色いレシートを専用ボックスの「はりまいのちの電話」に投函していただくと、レシート合計金額の 1% にあたる品物が「はりまいのちの電話」に寄付されます。今後、毎月 11 日にマックスバリュイオンタウン店に行かれた際は是非ともご協力よろしくお願い致します。

編集後記

先輩相談員の「一人で抱え込まなくていい」という言葉が心に残っています。悩みや不安は、誰にでも訪れます。けれど、声にしてみることで、少しだけ軽くなることがあります。電話の向こうにも声にならない不安や孤独を抱えておられる方がいらっしゃいます。そんな方々が、この広報誌を通して、いざというとき「電話してみようかな」と思い出していただくきっかけになれば幸いです。私たちは、そのしんどい気持ちに寄り添い受けとめられる相談員でありたいと願っています。最後までお読みくださり、ありがとうございました。これからも「はりまいのちの電話」の歩みを見守っていただけましたら心強く思います。

発行：社会福祉法人はりまいのちの電話 発行者：理事長 伊藤大典 編集：広報委員会 発行日：2026 年 6 月
事務局：〒670-0012 兵庫県姫路市本町 68 番地 TEL (079) 288-5099 FAX (079) 263-7210 <http://www.harima-inochi.jp>

※この事業は兵庫県・ひょうごボランティアの助成を受けて実施しています。